

<目的> 庵治町は、香川県の北東に位置し、瀬戸内海に突き出た半島で、大正末期より県下有数の漁業の町である。しかし、庵治石で有名な石材工業の隆盛（1955年頃より）、観光・レジャー開発（1975年頃より）、瀬戸大橋開通（1988年）による好景気の中で、漁業継承にも変化がおきている。そこで、本報告では、伝統的生活様式の中での魚家の妻に着目して、世代別役割や意識の変化について明らかにし、生活様式との関係を見る。

<方法> 庵治漁業協同組合会員世帯の既婚の全女性 241名を対象に、配票留置法によるアンケート調査を実施した。調査項目は、住まい方、就労形態、生活時間、家庭内役割などである。調査日は1991年11月30日で、対象者には前もって調査項目の説明を受けた調査員が配布し、1週間後回収した。回答数は183（回答率75.9%）であった。対象者の平均年齢は49.2歳、約6割の妻が親又は子家族と同居し、3.5割が核家族である。

<結果> 夫の親との理想的住まい方として、「ずっと同居」（38.8%）、「近居」（30.6%）、本人の親とは、「近居」（47.0%）、「ずっと同居」（21.9%）であり、拡大家族の妻は核家族の妻より親との同居志向が高い。就労については、現在、8割以上の夫が、漁業に従事しているが、妻は5割近くが専業主婦であり、漁業に従事しているのは約2割である。理想的就労形態は、「夫勤め人、妻専業主婦」が最も多く（3割以上）、特に若妻層で多い。両親共漁業従事者であった妻、拡大家族の姑層で漁業継承希望が高いが、拡大家族の嫁や、核家族の妻では低くなる。家計を世代毎に、完全に分離している世帯はないが、支出費目では部分的に世代分離がみられる。